

公開講演会

ポール・パボロ氏

熱帯雨林の最後の原生林を守るパプア
ニューギニアの小さな村からの訴え

—国境を超えるキリスト教会と草
の根の連帯—



主催: 立教大学文学部キリスト教学科
日時: 2017年6月29日(木)、18:30~20:30
場所: 池袋キャンパス 本館1203教室

パワーポイントとビデオを駆使する講演をもって、最後の熱帯雨林の楽園の人間と生き物たちの暮らし、広大な原生林と水系の相互関連、それを奪う伐採企業の不正と民衆の抵抗、「森を奪わないで」とのメッセージを学生たちに伝える。

日本で知られていない現地の状況、森を奪う政府と企業の政策、企業が住民を脅しながら不正な伐採を強行する日々、自らもいのちの危険にさらされつつも、決して諦めない決意を語る。村の教会での礼拝のさなかに住民が企業に襲われて長老が死傷を受けた出来事など、老いも若きも続けている抵抗のなかから、絶望から希望への光が見えてきたこと、多様な連帯が小さな村々の森を守る抵抗を支えてきたこと、キリスト教の連帯がその核にあることなど。

講師は1972年にパプアニューギニアのニューブリテン島のムー村に生まれ、現在この村を拠点に熱帯雨林を守る活動に邁進している。国内外のNGOから支援を受け、2016年に米国のAlexander Soros Foundation人権賞の受賞し、またオーストラリアのGlobal Witnessによる講演会へ招聘された。講演は英語で行われる(通訳付き)。



問合せ先:

ゾンターク・ミラ (文学部教授)

msonntag@rikkyo.ac.jp

03-3985-4714